

会員のひろば

■ 健康で働ける喜び

舟 吉川和彦

現在は高齢者社会で60歳になれば定年退職。体は元気で健康でも年齢的には再就職が困難です。毎日体をもてあます日々が続いているとき、ある友人より都市緑化協会へ登録して仕事をすればという声をいただきました。

緑化協会とはどのような仕事をすればよいのかとたずねると、主に草刈りや抜根作業といわれ、そのような仕事ならわたしもできると思い、入会させていただきました。

しばらくすると協会より仕事の依頼がきました。

最初の仕事は、NTTでの草刈り及び抜根作業でした。その後4年ほどで精華町シルバー人材センターが設立され、そちらへ入会させていただきました。

数多くの人たちとの出会い、人と人とのつながりができ、同僚たちと共に働き、共に声をかけ、助け合い、元気で仕事のできる喜び、健康であるありがたさをかみ締めながら、一日でも長く健康でシルバー人材センターの会員であることを願うばかりです。



ふるさと案内人だより

■ やましろ100ちーたび体験記

ふるさと案内人 齋藤恵彦

山城広域振興局が山城地域のボランティアガイドや市町村の観光部局に呼びかけ繰り広げている観光振興策「やましろ100ちーたび」に、わたしたち「精華町ふるさと案内人の会」が企画し応募した「精華町北稻地区の秋祭り宵宮を体験！ の旅」を、定員いっぱいの15名の参加者を招いて11月2日に開催いたしました。初めての企画でもあり、6名のふるさと案内人もお客様にわかり体験することになり、その体験記を以下にご紹介します。

当日午後5時に祝園駅に集合し、徒歩で約20分、稲穂が黄金色に染まる田んぼの北稻集落に入る。各家の軒先には情緒たっぷりのほのぼのとした温かい灯りが灯され、都会の喧騒から離れ情緒豊かな灯りの世界へといざなわれる。

途中参加も入れて出席者総勢21名で、ある農家の門をくぐりお座敷へ。その家の若奥様の実家の銘菓とお抹茶をいただく。お抹茶と合うそのお菓子のおいしさに思わずほっこり。続けて昨日から手作りされたという京料理の一つでもあるプリッとおいしい鯖寿司をごちそうになる。さらに小豆餅（あずきもち）でおなかがいっぱいに。



武内神社の神楽奉納

午後7時ころ武内神社にお参りする。境内にはテントが張られ、消防団手作りのおでん、たこ焼きでにぎわっていた。拝殿に上がり宵宮祭式典に参加。次いで白い小袖に緋袴を身につけた小・中・高・大学生たちの巫女による俗世間からかけ離れた美しい神楽の奉納を鑑賞。よく練習された神秘的な神楽にうっとり。

武内神社は文保元年（1317年、鎌倉時代）の創建とされ、南山城にゆかりの「武内宿禰（たけうちのすくね）」を主祭神とする古社。ちなみに武内宿禰は日本書紀、古事記に伝わる古代の人物で、明治22年から昭和20年ころまでの日本銀行券の肖像になっている。

五穀豊穰と地域の輪・協力の輪を残したいという田中宮司のお話に皆感銘を受けた。心豊かな時間を共有できた喜びに心高ぶった状態で午後8時半、祝園駅にて解散となる。